

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名		市民総参加型スポーツイベント実施事業		担当部署	市民環境部 スポーツ課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	鳴門市体育振興事業補助金交付要綱	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業期間	開始	平成 <input type="text" value=""/> 22 年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと			終期	<input type="text" value="未定"/>
(小項目)		スポーツ・レクリエーション				
施策	3	生涯スポーツの振興				
基本事業	2	スポーツ活動の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 5月最終水曜日午前0時から午後9時までに鳴門市内にいる人が参加対象であり、15分間以上継続して運動やスポーツ等の身体活動(運動)を行うと参加となる。					
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	心身のリフレッシュを図り、健康づくりを推進するため、いつでも、どこでも、誰でも、手軽で気軽に取り組めるスポーツの機会を創出する。					
事業計画	30年度に何を計画していたか	チャレンジデー開催決定後は、5月30日のチャレンジデー開催に向け、各種団体への参加依頼等を早期に開始するなど、チャレンジデーの実施に向けた取り組みを進める。					
成果目標	事業目標の達成度合	指標名					単位
		参加率	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	5月30日のチャレンジデー開催に向け、多くの市民の皆さまに参加していただき、目標を達成するために、各団体にイベント開催依頼及びPR活動等に取り組んだ。当日は鳴門市スポーツアドバイザーである里崎智也氏によるイベント会場訪問や「第九」と「コウノトリ」の展示会・抽選会などを実施した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 参加者数	38,115	37,235	35,000	35,000	35,000	人
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	参加率	64.0	63.6	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		106.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		補正予算額	0	0	0	0	300	300
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	300	300
		決算額	0	0	0	0	300	300
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)		総人件費		総事業費
		1.0	0.0		7,321		7,621	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：市民総参加型スポーツイベント実施事業】

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	300	300	300	300	300
	うち一般財源	300	300	300	300	300
	人件費	7,234	7,321	7,321	7,321	7,321
	総事業費	7,534	7,621	7,621	7,621	7,621

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		当日は、市内各地で様々な団体によりイベントが実施された。 各イベント実施団体の役割の見直しや、当日の業務にあたる職員の削減に努めた。
	効率性	A:効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	参加率		参加率の目標を達成した。
	目標	60	%	
	実績	63.6	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		各団体への呼びかけ等を積極的に行い、参加率の目標を達成。市民の認知も高まってきている。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	チャレンジデーの認知度は高まってきていると実感しているが、イベント開催当日のみならず、運動を日常的に習慣化させるための施策を盛り込んでいく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	「鳴門市まちづくりアドバイザー」であり、体幹トレーニングの第一人者である木場克己氏による「KOBA☆トレ」の体験イベントなど、従来の取り組みに加えチャレンジデーの注目度を向上させる施策を盛り込み、参加率の拡大を目指す。			
	R2年度	今年度の実施状況により、次年度以降検討する。			